



みんなちがって みんないい

学校長 大竹 貴子

風薫るさわやかな季節となりました。

学校では、本格的に運動会に向けての活動が始まり、学年の種目だけでなく、リレーや応援団、係の仕事に力を発揮しようと意欲満々の子どもたちの姿を見ることができます。

「みんなちがって、みんないい。」これは金子みすゞさんの『わたしと小鳥とすずと』の一節ですが、この中沢小学校には、合唱団の子どもたちはもとより、水泳やバスケットボール、ピアノや書道など、自分の好きなことに一生懸命取り組んでいる子どもたちがいることを知りました。いろいろな面で自分の個性を発揮し努力していることはすばらしいです。

一方、みんなとちょっと違う行動をしたり、みんなと同じようにできなかつたりしたときに、周りの人が冷ややかに見てしまうこともあります。人はみな、得意なこともあれば苦手なこともあります。「みんなちがって、みんないい。」運動会では、一人ひとりが得意なことにも苦手なことにも一生懸命に取り組む、それを周りの友達も温かく励まし認め合えるようになってほしいと思っています。そして、どんな結果であっても全校の子どもたちが「やってよかった。」と思える運動会にしてほしいと願っています。

学校では、ちょっとした喧嘩で友達をぶってしまった、悪口を言ってしまった、というものや、下校時、一緒に帰ってもらえなかった、仲間はずれにされたというトラブルはよくあります。そのような場合は、互いに話し合い解決すればよいのですが、それが「いじめ」につながってしまうこともあります。

本校の子どもたちの間でも、ふざけ半分でからかいの言葉を言ったり、ぶちあいつこがだんだんエスカレートしてしまったりするケースがあります。一見単なるトラブルに見えますが、いつも一方の子どもだけがされる、多くの子どもたちからされるという場合は、「いじめ」につながる可能性もあります。一つ一つはたいしたことではなくても、何度もされると、だんだん辛くなってきます。しかも一人だけでなくいろいろな友達にされるとなおさらです。そして、今日もされるのではないかとだんだん不安になってきます。

このようないじめの中には、「いじめている」という自覚がなく、また、一つ一つのことでもたいしたことではないと思っている場合もあるそうです。そのため、「いじめ」と分かったときにも、ピンとこないということがあるようです。また、集団になると場の雰囲気、空気、ノリにのまれて「なんとなく」してしまうことも多いそうです。しかし、どんな理由があれ、いじめはけっして許されることではありません。された子どもは、深くこころが傷つきます。そこで、早い段階で大人が気づき大きな「いじめ」に発展するまえに指導することが大切です。いじめは、どの子どもにも起こりうるものです。ぜひ、ご家庭でもチェックシートを参考にお子さまの様子を見ていただきたいと思います。また、地域の皆様にも、登下校中や放課後の子どもたちの様子を見ていただき、気が付いたことがありましたら学校にご連絡いただけたら幸いです。

いじめをなくすためには、すべての子どもが日頃から、「私は大切な存在」と自分自身で思い、周囲からもそう思われていると心の底から感じるのが必須です。「私も大事」「あなたも大事」と実感してこそ、いじめがなくなると考えます。学校・家庭・地域が連携して子どもたちを見守り、安心できる環境を整えていきたいと思っています。ご協力くださいますようお願いいたします。